

中学校

平成 8 年 度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

平成8年度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第1分科会 学級活動	港	三河台中学校	西田修一
	大田	安方中学校	山内秀子
	世田谷	用賀中学校	藤江敏郎
	板橋	志村第一中学校	神田京子
	足立	蒲原中学校	上岡祥邦
	八王子	宮上中学校	◎橋本正則
	府中	第二中学校	平井邦明
	あきる野	秋多中学校	安藤憲仁
	利島	利島中学校	横澤広美
	第2分科会 生徒会活動	台東	上野中学校
目黒		第七中学校	福山隆彦
練馬		石神井東中学校	重山直毅
葛飾		本田中学校	○竹末速人
江戸川		春江中学校	越田明宏
小金井		緑中学校	井手晃一
保谷		柳沢中学校	大柴浩一

◎ 世話人    ○ 副世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 和田 孝

研究主題

主体的に考え、判断し、行動できる生徒を育てる特別活動の指導の工夫

目次

I	主題設定の理由	2
II	第1分科会『広い視野に立ち、主体的かつ柔軟に 生き方を考える生徒を育てる学級活動の工夫』	
1	副主題設定の理由	2
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	3
(2)	アンケートのまとめと分析	4
(3)	実践①「アンケート調査を生かした進路学習」	5
	実践②「劇を取り入れた進路学習」	9
3	研究のまとめと今後の課題	13
III	第2分科会『生徒一人一人の委員会活動への 意欲を高める活動と評価の工夫』	
1	副主題設定の理由	14
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	14
(2)	意欲・関心を高める活動と評価の工夫による実践研究の流れ	15
(3)	実践を通しての意識の変容と分析	16
(4)	意識・関心を高める実践例	
	ア 朝礼などの集会を利用した活動	18
	イ 壁新聞の活用	19
	ウ 放送活動を中心として	20
	エ 生徒会新聞と壁新聞の活用	21
(5)	評価の工夫と実践例	22
3	研究のまとめと今後の課題	24

## I 主題設定の理由

今後の社会は、国際化、情報化、科学技術の高度化などが一層進展し、これまで以上に変化の激しい、先行き不透明な時代であると考えられる。このような社会を生きていく子供にとっては、社会の変化に主体的に対応し、自己実現を図って生きていくことができる意欲や態度を身に付けることが重要である。

しかし、現在の中学生は、「自主性に欠ける」「自己中心的である」などの傾向があり、また、「同質にとらわれる社会」において、「みんなと同じでいたい」ことを求める心情が、生徒の間にも存在することが指摘されている。こうした生徒をかかえている学校も画一的で知識注入型の指導から、生徒の個性やよさを生かす指導へ転換しきれていないのが実情である。

そこで、学習活動の質的転換を図り、生徒が主体的に判断し、行動し、様々な問題をよりよく解決できる資質や能力を育てていくことが、学校に課せられた重要な課題となっている。また、このことは同時に、生徒の主体的な活動に向けての教師の支援の在り方を創造することが求められていると言える。

この課題の解決を図るため、研究主題を「主体的に考え、判断し、行動できる生徒を育てる特別活動の工夫」とし、学級活動と生徒会活動の研究実践から本主題の解決に迫った。

## II 第1分科会

副主題「広い視野に立ち、主体的かつ柔軟に生き方を考える生徒を育てる学級活動の工夫」

### 1 副主題設定の理由

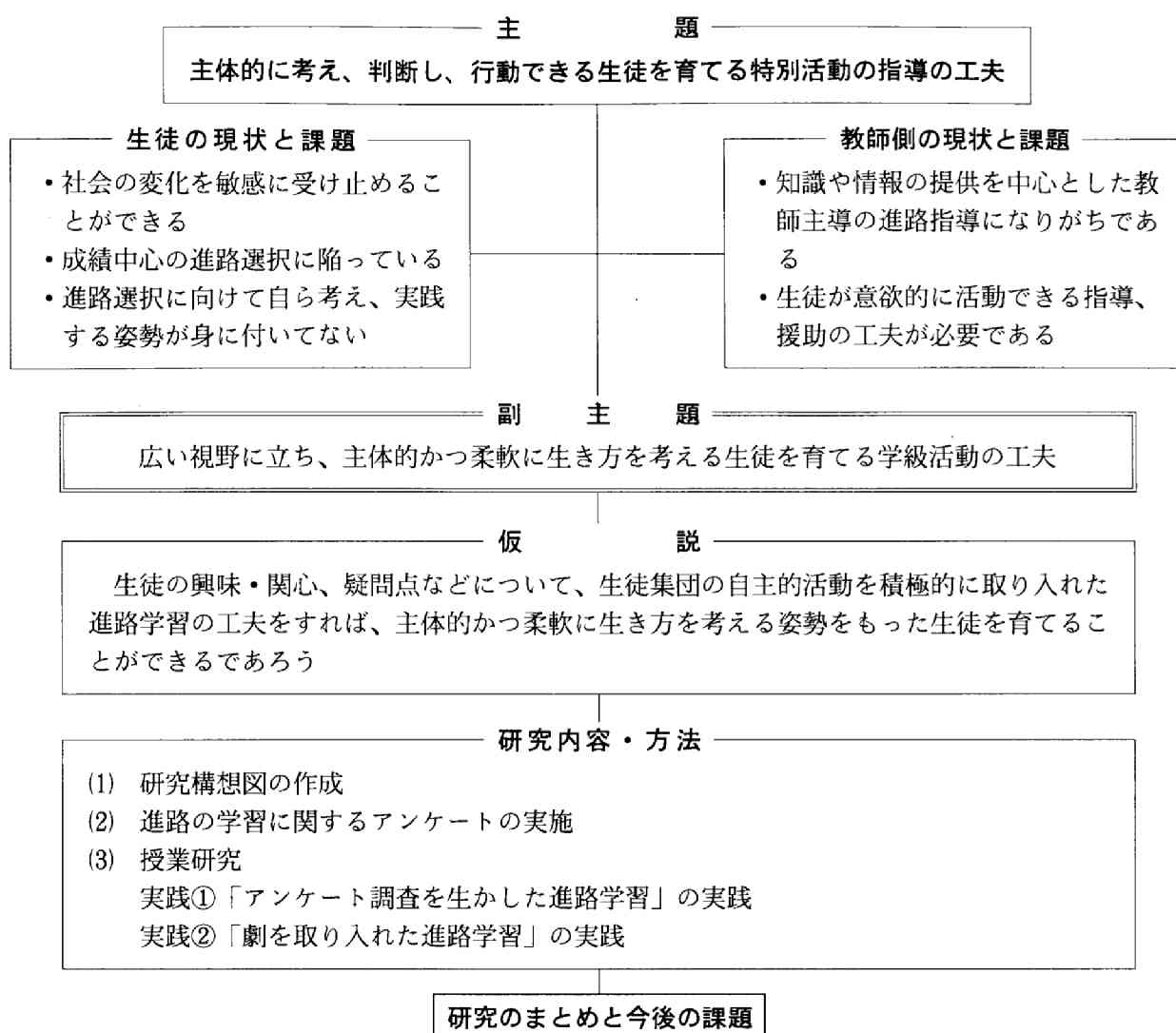
学級活動では、生徒の主体的な活動が中心となって展開されていくことが大切である。しかし、進路に関する活動においては、知識や情報の提供を中心とした教師主導の学習に陥っている場合が多く、生徒自身が具体的に内容や方法を考え、実践するという活動が少なくなっている。

現在の進路に関わる学習の状況を見ると、『進路＝進学』にとらえている生徒が多く、広い視野に立った目的意識や自己理解に基づいて、自己の個性やよさを生かす進路選択になっていない傾向がある。すなわち、「将来、どんな職業に就いて、どんな生き方をするのか」という長期的展望をもち、その実現に向けて努力していく姿勢が身に付いていない生徒が多い。このことから、中学校段階で自らの生き方についての自覚を深め、困難にくじけることなく、意欲的に生きていく生徒を育てることが大切と考えられる。

そこで本分科会では、進路の選択や人間の生き方にかかわる学習を、一人一人の生徒が自らの課題として受け止め、積極的に取り組んでいく姿勢をもたせるために、生徒が主体的に考え、判断し、行動できる活動を多く取り入れるなどの工夫が必要であると考え、本副主題を設定した。

## 2 研究の内容

### (1) 研究構想図



### (2) 進路の学習に関するアンケート調査

#### ① ねらい

今までの学習してきた進路学習において、生徒がどのような項目に興味や関心を示し、また、今後の進路を考えたとき、どのような不安や悩みをもっているかについてアンケート調査を実施し、生徒の実態把握を行った。

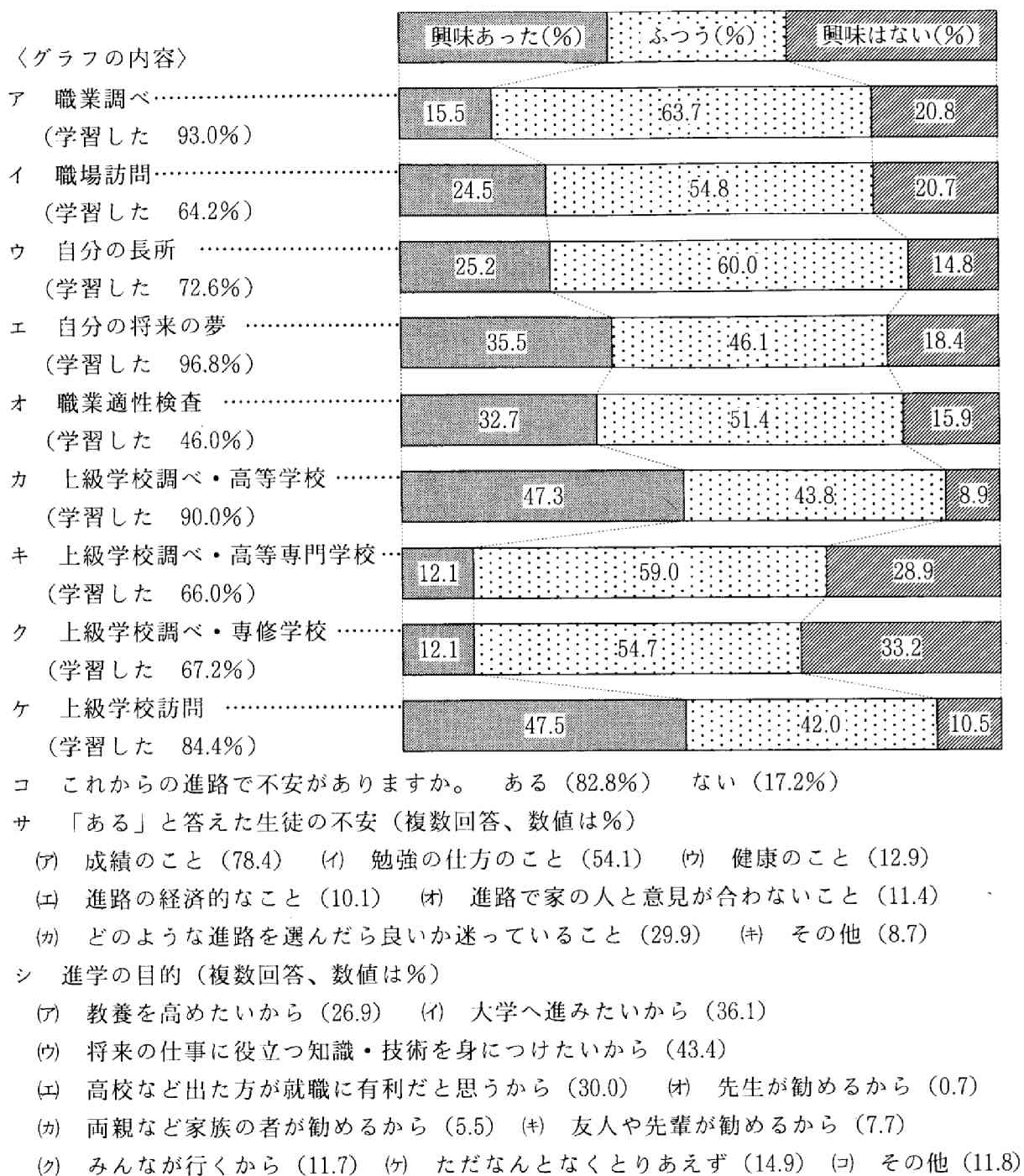
#### ② 対象生徒 6校 746名 第3学年

#### ③ 内容及び結果

調査内容は、中学三年生までに行ってきた進路学習の内容についての9項目と、これからの進路についての不安など1項目で行った。

「学習した%」は、対象生徒に対して実際活動を行った生徒の割合

グラフ内の数字(%)はそれぞれの活動を学級活動等で「学習した生徒」を100%とした数値



#### ④ 考察

このアンケートから、生徒の興味や関心が高校進学にかかわる内容に偏っていることがわかり、「進路＝進学」という考え方が見られる。また、明確な目的意識をもたずに高校進学を考えている生徒も見られる。その一方で自分の生き方について高い関心をもっている生徒は多く、また不安を抱いている生徒も多い。

このことから進路に関する不安や悩みを自ら解決させ、将来を見通した視野の広い進路選択能力を身に付けさせる進路指導を進めて行く必要があることがわかる。

### (3) 授業研究

#### 実践例①「アンケート調査を生かした進路学習」

[本研究のねらい]

進路に関するアンケート調査から、生徒がお互いの興味・関心、不安や悩みを知り、課題を選択し、調査研究していくことによって進路学習への意識を高め、主体的に考える生徒を育成する。

#### ① 指導計画

ア 題材名 第三学年 「よりよい進路選択をするために」

イ 題材設定の理由

三年生という時期、目先の進路を選択することに気を奪われて、将来を見据えた進路の適切な選択をすることができないこともある。そこで、現在の自分の興味・関心、不安や悩みを自らの力で主体的に考え、解決し、取り組んでいけるようにすることが大切であると考えた。そこで、学級という集団を通し、それぞれがもつ進路に関する興味・関心を深め、また、不安や悩みを解決する方法を学びあうことで適切な進路選択が行われるのではないかと考え、本題材を設定した。

ウ 指導のねらい

(ア) アンケート調査から、進路選択に関する不安や悩み、興味・関心を誰もがもっていることを知り、それを自らの力で主体的に考え、解決しようとする態度を育てる。

(イ) 他の班の発表から、いろいろな進路選択の方法や考え方があることを理解するなど、学級での集団活動を生かして取り組むことによって、協力することを学ぶ。

エ 指導の過程

(第一時) ・進路に関するアンケートを実施し、その集計結果をもとに、生徒に感想や気付いたことを発表させる。

・班ごとにアンケートのどの部分を取りあげて研究するかを決めさせる。

(第二時) ・研究について、その取り組みや発表の方法を考えさせる。

\* 放課後の時間を使い、各班ごとに調査・研究・発表の準備を行う。

\* 発表会前に、発表会用の冊子を配布し、あらかじめどのような発表が行われるのかを把握させ、質問を考えさせておく。

(第三時) ・各班ごとに発表を行う。

「本時」 ・各班の発表の感想を書かせる。

(第四時) ・発表会の感想を各班に返却し、それを読んだあとの気持ち、感想等をアンケート調査する。

オ 本時のねらい

・各班の課題について、調査研究の結果を発表する。

・他の班の発表を聞き、いろいろな進路選択の方法や考え方があることを理解する。

・感想を書き、今後の進路に関する意識を高める。

カ 本時の展開

	活動内容	指導・援助	評価の観点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ</li> <li>本時の活動内容を知る</li> <li>司会が前に出て準備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの取り組みを振り返り、本時が和やかな雰囲気に進むようにするとともに、発表をよく聞くようにさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に配布した冊子の内容を理解しているか</li> <li>本時の内容やねらいについて理解し、活動意欲がもてたか</li> </ul>
活動の展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>司会 <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の仕方や聞く態度について注意をする</li> </ul> </li> <li>各班より発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>各班約5分</li> </ul> </li> <li>発表の班への質問をする(約2分)</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の記録カードを配布する。そして、各班の発表で参考になった点や、質問したいことを書かせる</li> <li>発表中に、机間指導をして、メモの取り方をアドバイスする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容を分かりやすく発表できたか</li> <li>他の班の発表に関心をもって聞けたか</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録カードの記入</li> <li>司会あいさつ</li> <li>あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時が自分の進路を考える上で、参考になったかどうか考えさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班の発表を聞き、まとめられたか</li> </ul>

キ 本時の評価

- (ア) 不安や悩みをもっているのは、自分だけではないことを理解し、みんなで協力して乗りきる姿勢ができたか。
- (イ) これからの進路選択に積極的に取り組み、意欲をもって自分の目標を実現しているという気持ちももてたか。
- (ウ) 主体的に班活動に参加できたか。

ク 事後の指導

- ・発表会での感想を各班に返し、他の生徒がどんな考えをもったかを知る。また、今回の取り組みについての感想・アンケートをとる。



② 実践の結果

ア 発表会準備と発表会の様子

発表会準備 (写真1)

各班でアンケート項目の中から、興味のあることを調べ、冊子を作る。それを基に発表会に向けて準備する。発表方法は各班で考える。

発表会 (写真2)

班ごとに調べたことを発表する。発表方法はOHP、模造紙、ビデオなどいろいろ工夫する。

発表会 (写真3・4)

各班の発表後、質問を行う。また、発表を聞いてその感想を記録カードに記入する。その感想を各班に渡し、それを読んだ後で、全体的なまとめの感想を書かせる。

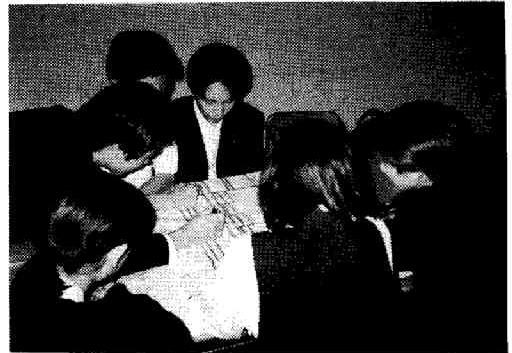
イ 発表内容

- 1 班：上級学校調べ
- 2 班：高校訪問
- 3 班：受験生の健康について
- 4 班：大学について
- 5 班：都立高校調べ
- 6 班：高校進学にかかる費用

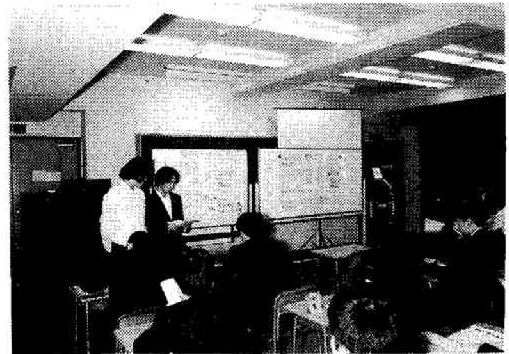
(生徒が行ったアンケート)

調査対象生徒		中学校 184名 第3学年		
調査内容及び結果 (グラフ内の数字 (%) は「学習した生徒」を100%とした数値)				
グラフの内容		興味あった (%)	ふつう (%)	興味はない (%)
ア	職業調べ (学習した 93.2%)	17.2	66.7	16.1
イ	職業訪問 (学習した 63.8%)	40.1	62.5	32.8
ウ	自分の長所 (学習した 95.6%)	21.3	64.9	13.8
エ	自分の将来の夢 (学習した 92.0%)	42.5	50.0	7.1
オ	職業適性検査 (学習した 72.3%)	18.1	59.7	20.8
カ	上級学校調べ・高等学校 (学習した 95.1%)	49.5	37.9	12.6
キ	上級学校調べ・高等専門学校 (学習した 77.5%)	14.1	61.3	34.6
ク	上級学校調べ・専修学校 (学習した 79.4%)	12.5	51.9	35.4
ケ	上級学校訪問 (学習した 80.9%)	26.3	42.0	19.8
コ	これからの進路で不安がありますか。 ある (85.2%) ない (14.8%)			
サ	「ある」と答えた生徒の不安 (複数回答、数値は%)			
	(7) 成績のこと (61.9) (4) 勉強の仕方のこと (45.1) (9) 健康のこと (14.7)			
	(1) 進路の経済的なこと (7.1) (4) 進路で家の人と意見が合わないこと (8.2)			
	(1) どのような進路を選んだら良いか迷っていること (22.3) (4) その他 (6.0)			
シ	進学の目的 (複数回答、数値は%)			
	(7) 教養を高めたいから (21.7) (1) 大学へ進みたいから (34.8)			
	(1) 将来の仕事に役立つ知識・技術を身につけたいから (32.1)			
	(1) 高校など出た方が就職に有利だと思うから (29.3) (4) 先生が勧めるから (1.1)			
	(1) 両親など家族の者が勧めるから (3.3) (4) 友人や先輩が勧めるから (1.1)			
	(7) みんなが行くから (8.2) (1) ただなんとなくあえず (14.7) (1) その他 (13.6)			

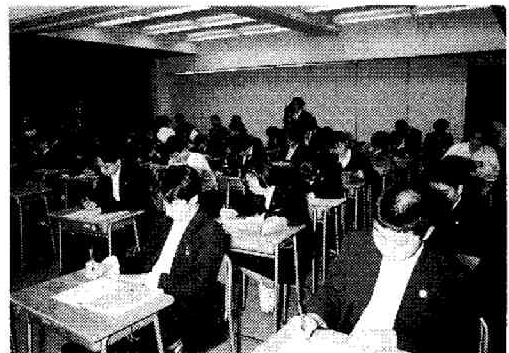
(写真1)



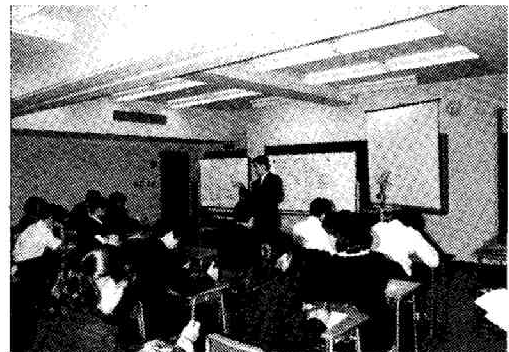
(写真2)



(写真3)



(写真4)



## ウ 生徒の感想

- 高校や上級学校のことを聞いて、そろそろ本気で進路について考えないといけないと思った。(男子)
- いろいろな高校のことを調べて参考になった。お金のことは大切な問題なので調べてよかった。大学についての発表もあって高校後のことも少し考えなくてはいけないなと思う。(女子)
- まだまだ中3という自覚があまりなくて進路とか受験とかあまりピンとこないけど今回の発表で少し自覚が出てきたと思う。高校にはその学校独自のものがあることがよくわかった。(男子)

## (実践後のアンケート)

発表会を終えて			
	3年		いいえ
	男 22	女 15	
1: 不安や悩みを持っているのは、自分だけではないことがわかりましたか。	91.9%		8.1%
2: クラスや班で協力して不安や悩みをのりきって、いこうとする気持ちになりましたか。	86.5%		13.5%
3: これからの進路選択に、今まで以上に積極的に取り組んでいこうと思ようになりましたか。	91.9%		8.1%
4: 意欲を持って自分の目標を実現していこうという気持ちになりましたか。	94.6%		5.4%
5: 今回の活動をしてみて、自分の進路選択に少しでもプラスになりましたか。	91.9%		8.1%

- 成績のレベルだけで学校を探すことは良くないことがわかった。自分が考えている学校の特徴をもっとよく調べていこうと思う。学校を選ぶことは勉強と同じくらい大切でその上とても大変だと思う。これからもっともっと受験について考えていきたい。(女子)
- わからなかったことがわかったので、この企画は成功だと思う。でもまだまだ高校についての知識は不十分だと思うので、もっと積極的に調べていきたい。(女子)
- みんなで協力して進路についての調査ができた。楽しく学べたのでよかったと思う。最後にはみんなの発表がすごくよくできていた。進路選択に大いに役立ったと思う。(男子)

## ③ 研究のまとめと今後の課題

### ア まとめ

- 不安や悩みをもっているのは自分だけではないことがわかった生徒が92%おり、クラスや班で協力して、不安や悩みを解決していこうとする気持ちになった生徒が86%に達したことで、問題の共有化が図れたと考えられる。
- アンケート調査を利用することにより生徒が自ら課題を見つけ、興味をもって取り組み、進路というものはいろいろな方向や考え方があることを理解させることができた。
- 生徒は自分たちの調査研究や発表会に満足し、成績だけで進路を選んではいけないと考える生徒がでてきたのは、視野を広げるきっかけとなり、大きな成果である。

### イ 今後の課題

- 自分たちが何に興味・関心または不安があり調査研究をしたのか、発表前にはっきりさせ、調査後意識がどう変わったのかを発表させると、自分たちの研究の成果が明らかになるとともに、クラスの他の生徒との問題の共有化が一層図れる。
- クラス発表の方法や内容についてできるだけ生徒自身に考えさせ、活動させることを目的としたため、教師側からの援助を最小限にとどめた。その結果、内容を十分に深めることができなかった。
- 進路指導、学校行事などとの兼ね合いを考えながら、学級活動の年間指導計画を立て無理なく計画的に生徒が活動できるようにする。
- 進路＝進学と考える生徒が多い現状をふまえて、3年間を見通した幅広い進路指導計画をたてる必要がある。

## 実践例②「劇を取り入れた進路学習」

〔本研究のねらい〕

本研究の主題に迫るアプローチの一つとして、「劇による学級活動の展開」を試みた。

劇は、高校進学をめぐる家族会議の場面を設定した。劇を通して成績による一元的かつ受動的な進路選択の姿勢を、多面的な話し合いを深めることによって、主体的、能動的な姿勢に転換させることをねらいとした。また、活動の展開についての話し合いや、劇の登場人物や司会の分担、劇の練習などを学級活動委員会で分担し、協力して行うことで、学習に積極的に取り組ませる意欲を高める。

### ① 指導計画

ア 題材名 第二学年「進路選択の目的と条件」

イ 題材設定の理由

今日、多くの生徒が、「ただなんとなく」「みんなが行くから」「親が行きなさいというから」等々の理由で進路を選択し、その進路も成績による一元的な高校選択に陥っているのが実情である。

そこで、二年生の比較的時間に余裕のある時期に、広い視野で自分の夢の実現や将来の生き方を考えていこうという姿勢をつくり、これからの学校生活や進路学習に対して意欲をもって取り組むための動機付けとなることをねらいとして、本題材を設定した。

ウ 指導のねらい

事例についての話し合いを通し、次のことに関する意識、意欲を高める。

- a 将来を見通した進路選択を意識させる。
- b 進路選択の条件を考えさせる。
- c 進路学習に意欲的に取り組む姿勢をもたせる。

エ 活動テーマ

「進路の選択で大切なことを考えよう！」

オ 活動のねらい

自分の夢と進路希望の実現に向けて、どのような考え方や条件があるかを考える視野と態度を身に付ける。

カ 指導計画（第二学年）

- a 職場体験学習（第1学期～第2学期）
- b 進路選択の目的と条件（第2学期）
- c 上級学校調べ、上級学校訪問（第2学期～第3学期）

ク 事前の指導と生徒（学級活動委員）の活動

- a 題材の理解 学級活動委員会において、劇による活動展開についての教師の話聞き、話し合う。
- b 劇の練習 学級活動委員で役割を分担し、練習をする。
- c 司会の指導 活動の展開と討論の進め方について、話し合う。

ケ 本時の活動

	活動のねらい	活動内容	教師の支援、留意点等	評価
活動開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材の理解</li> <li>活動のねらいの把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の話聞く</li> <li>学級活動委員から本時の流れを聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話は簡潔に</li> <li>個人カードを配布する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいが理解できたか (個人カード・発問)</li> </ul>
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の目的や条件について考える</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>劇の鑑賞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>会場づくり</li> <li>劇を見る</li> </ul> </li> <li>討論(→発表)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜ、母親の気持ちを考えてみよう」</li> <li>*母親、父親、姉のそれぞれの気持ちを考える (一人一人が考え、班でまとめる)</li> <li>発表 話し合いの結果をまとめて発表する</li> </ul> </li> <li>討論(→板書)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「進路の選択で大切なことは何かを考えてみよう」</li> <li>(一人一人が考え、班でまとめる)</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素早く指示し、準備をする</li> <li>司会の生徒に適時助言する</li> <li>個人カードに記録させる</li> <li>適時、班長に助言する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して鑑賞できたか</li> <li>劇の内容が理解できたか (発問)</li> <li>自分の意見をまとめたか (机間指導)</li> <li>班の話し合いに積極的に参加できたか (机間指導・個人カード)</li> <li>自分の意見をまとめたか (机間指導)</li> <li>他の人の意見を理解できたか (個人カード)</li> </ul>
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路選択の条件の確認</li> <li>今後への発展</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「進路の選択で大切なことをまとめよう」 (司会がまとめる)</li> <li>教師の話聞く (進路選択は、広い視野に立ち、主体的に行うことの大切さを教える)</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書された班の意見を活用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時で学んだことを今後の生活に生かしていこうという気持ちを持ったか (個人カード)</li> </ul>

<劇のあらすじ>

登場人物

- ・祐一 中学2年生、のんびり屋
- ・優子 高校2年生、優等生
- ・父親 サラリーマン
- ・母親 PTAの委員をしている

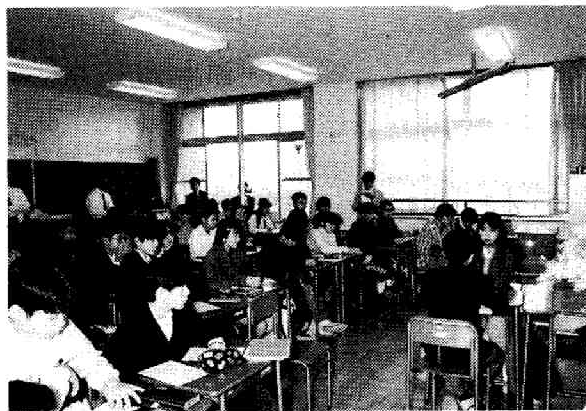
2学期のある日、担任の先生から、将来の進路について、家族でよく話し合っておくようにとの話があった。

数日たったある日、母親から、必ず普通高校に行くように勧められるが、祐一は農業高校へ進学を考えている。しかし、母親になかなか納得してもらえない。

その日の夜、父親も含めての家族会議となる。

「将来のために普通高校が一番」という母親、「自分の後悔から、将来の職業をよく考えて決めた方がいい」という姉、「自分の生きたいようにしなさい」という父親と祐一を交えた家族会議が展開する。

<写真 劇の風景(祐一と母親の会話)>



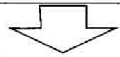
コ 事後の指導と生徒の活動

- 学級活動委員会で、成果の確認と今後の活動について話し合いをする。
- 進路に関する悩みや相談が気軽にできるような環境をつくりあげる。

② 生徒の活動の経過（授業内）

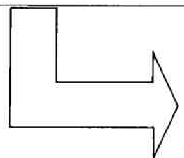
〈生徒の意見〉

父の立場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強ばかりで疲れきってしまって夢をもつことを忘れてほしくない</li> <li>・自分の将来だから祐一の考えに任せてあげたい</li> </ul>
母の立場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科の高校へ行って将来大学に行ってほしい</li> <li>・よい学歴を身に付けてほしい</li> <li>・周りのみんなと同じようにして普通の人生を歩んでほしい</li> </ul>
姉の立場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績だけで高校を選択して今では後悔しているので、将来のこととか高校の内容をよく調べて、楽しい高校生活を送ってほしい</li> </ul>



〈進路の選択で大切なこと（黒板より）〉

- ・あまり人の意見に流されず自分の考えを大切にすること
- ・自分の思ったとおりに生きること。親や兄弟などの経験者の意見を参考にすること
- ・自分のやりたいことが何なのかしっかり考えること
- ・自分やりたいことが実際に実現できるかを現実的に見ること



〈司会のまとめ〉

現実をよく考えて、自分の考えを大切にして後悔することのないようにすることが大切である

学級活動個人カード

2年 組 班氏名

進路を考えたとき、君たちの中には、「まだまだ、先の話だよ。」「まだ、何にも考えていない。」「とにかく、高校進学だから…」などいろいろな気持ちや考えがあることでしょう。今日の学活では、適い将来のことを意識した進路をいつものとは違った方法で考えてみたいと思います。

- 今日の学習のテーマは？  
\_\_\_\_\_
- みんなで考えることは、何？  
\_\_\_\_\_
- ( ) を考えてみよう。  

<自分の考え>
- 3について、班でまとめてみよう。（班会議→班長発表）  

<班のまとめ>
- ( ) を考えてみよう。（班会議→班長報告）  

<自分の考え>

<他の人の考え>
- 自己評価 A とても B 結構 C 結構ではない D できていない  
 ①今日の学習内容は、よくわかりましたか…………… A・B・C・D  
 ②自分の将来について、改めて考えることができましたか。A・B・C・D  
 ③自分の意見を持つことができましたか…………… A・B・C・D  
 ④人の意見を尊重することができましたか…………… A・B・C・D  
 ⑤班の話合いに積極的に参加できましたか…………… A・B・C・D  
 ⑥今日の学習をこれからの学習に生かしていけますか… A・B・C・D  
 ⑦今日の進路学習は、楽しかったですか…………… A・B・C・D
- 今日の進路学習の感想

③ 評価

- ア 将来を見通した進路選択の大切さを理解することができたか。
- イ 意欲的に授業に参加することができたか。

④ 授業実践による成果と生徒の変容

ア 学級全体について

この授業をおこなうに当たって、生徒の進路に対する意識を、

- ①「将来なりたい職業を決めている生徒」
- ②「将来なりたい職業を考えてはいるが、まだ悩んでいる生徒」
- ③「将来のことは考えていない生徒」

に分類した。

その上で、それぞれの意識をもつ生徒についてその変容をとらえてみた。その際に、生徒のワークシートの質問5（進路の選択で大切なことは何かを考えてみよう）と質問7（今日の進路学習の感想）、アンケート⑥（今日の学習をこれからの学習に生かしていけま

すか)と⑦(今日の進路学習は楽しかったですか)で研究の成果を検証した。

生徒の状況	考察
①「将来なりたい職業を決めている生徒」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問項目5を見る限りにおいて、進路選択について将来を考えたものとしてとらえている生徒は少ない</li> <li>・今回の進路学習で、自分が考えている将来について、夢や希望などをもう一度周りの人の意見も参考にして考え直してみようという姿勢がでてきている</li> <li>・劇の中に登場する主人公の悩みが自分のものとして受け止められたのではないかと思われる</li> </ul>
②「将来なりたい職業を考えてはいるが、まだ悩んでいる生徒」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択において大切なことの中に自分の意見をしっかりとつことが大切だと記入している生徒が多い</li> <li>・「とりあえず高校に行ってから考えよう」と考えている生徒の中に「自分の夢」「自分のやりたいこと」「将来のこと」というキーワードを書いている生徒が出てきている</li> <li>・中学卒業後、高校に進学するにしても『自分が何のために高校に行くのか』を常に考えておくことは必要であり、動機付けにはなった</li> </ul>
③「将来のことは考えていない生徒」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の学習に自分の意見をもって班会議に参加しているのが個人カードから分かる</li> <li>・『自分のやりたいことは何か』『自分にあっていることはいったい何なのか』という段階から考えていこうとする姿勢が出てきた</li> </ul>

⑥ 今日の学習をこれからの学習に生かしていただけますか。(肯定的回答 95%)

⑦ 今日の進路学習は楽しかったですか。(楽しかったとの回答 92%)

以上の⑥、⑦の結果により、今回の事例は、進路に対して何かしら考えるきっかけを与えたと同時に生徒の意欲や積極さを呼び起こしている。

#### イ 学級活動委員会についての考察

授業の前後に学級活動委員会の生徒が自己評価(5段階)を行った。

a 演技や活動に積極的に取り組める。(取り組めた)	活動前 4.0 → 活動後 4.4
b 劇を見てみんなは興味を示す。(示した)	活動前 3.3 → 活動後 3.8
c これからも、このように生徒が中心となって活動したり、あるいは企画したりする活動を考えてみたい	活動後 4.2

#### [学級活動委員会における生徒の感想]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動委員会の回数が少なかったのによいものができたと思う。思っていたよりみんな積極的にやっていた</li> <li>・みんなが楽しんで学べるような進路学習をまたやりたい</li> </ul>
--

## ウ 研究の成果

- (ア) 今回の「劇化の事例と討論の形態」は、一人一人の生徒の進路選択の意識形成に結びつくものである。
- (イ) 生徒の積極的な姿勢をつくらせるために、学級集団の興味・関心や体験を十分考慮して、学級活動委員会の主体的な活動の持ち方や討論の仕方を工夫することが、大切である。

## エ 課題

- (ア) 劇のシナリオを学級活動委員会のメンバーに再検討させ、生徒にとってより身近な問題に近づけていけるような工夫をする。
- (イ) 劇後の意見交換の時間を確保し、一人一人の生徒の課題を整理し、考えを深めることが大切である。

## 3 研究のまとめと今後の課題

本研究のねらいは、成績による一元的な進路選択や知識・情報の理解、習得を中心とした受動的な進路学習を改善し、生徒一人一人が自己の進路について目的意識をもち、主体的に生き方を考え、自己実現を図っていく生徒を育てる学級活動の工夫、及びそのための教師の指導・支援の在り方を明らかにすることである。

### (1) 研究のまとめ

- ① アンケート調査から生徒は成績による進路選択を考えている反面、自己の生き方について高い関心をもっていることも明らかになった。
- ② アンケート調査を生かした進路学習では、生徒は自らの課題を見つけ、意欲的かつ真剣な姿勢で活動に取り組むことができた。このことは、進路に関する不安や悩みについて、課題を学級の集団活動を通して共有し、その解決を図ろうとする気持ちをもつことができたと言える。
- ③ 劇を取り入れた進路学習では、生徒一人一人は劇に興味を示し、学級での積極的で討論を通して、進路についての目的意識をもち、自己実現を図っていくことへの理解を深めた。また、これからも生徒が中心となって活動する学級活動を企画してみたいとの意識を高め、今後の学級活動の発展に結びついた。

### (2) 今後の課題

- ① 学級の生徒の実態に応じて、アンケート、劇、ディベート、パネルディスカッションなど、生徒の興味、関心を高める学級活動の形態および展開を、生徒とともに考えて行くことが大切である。
- ② 生徒の主体的な活動を推進するためには、活動の形態の工夫とともに、具体的な活動を生徒の主体性に任せるような教師の意図的、計画的な指導が大切である。
- ③ 生徒の興味、関心や不安、悩みなどを的確に把握し、学級活動の年間指導計画を作成し、それを基にし、生徒の主体性を尊重した進路の学習を継続して実践することが重要である。

### Ⅲ 第2分科会

副主題「生徒一人一人の委員会活動への意欲を高める活動と評価の工夫」

#### 1 副主題設定の理由

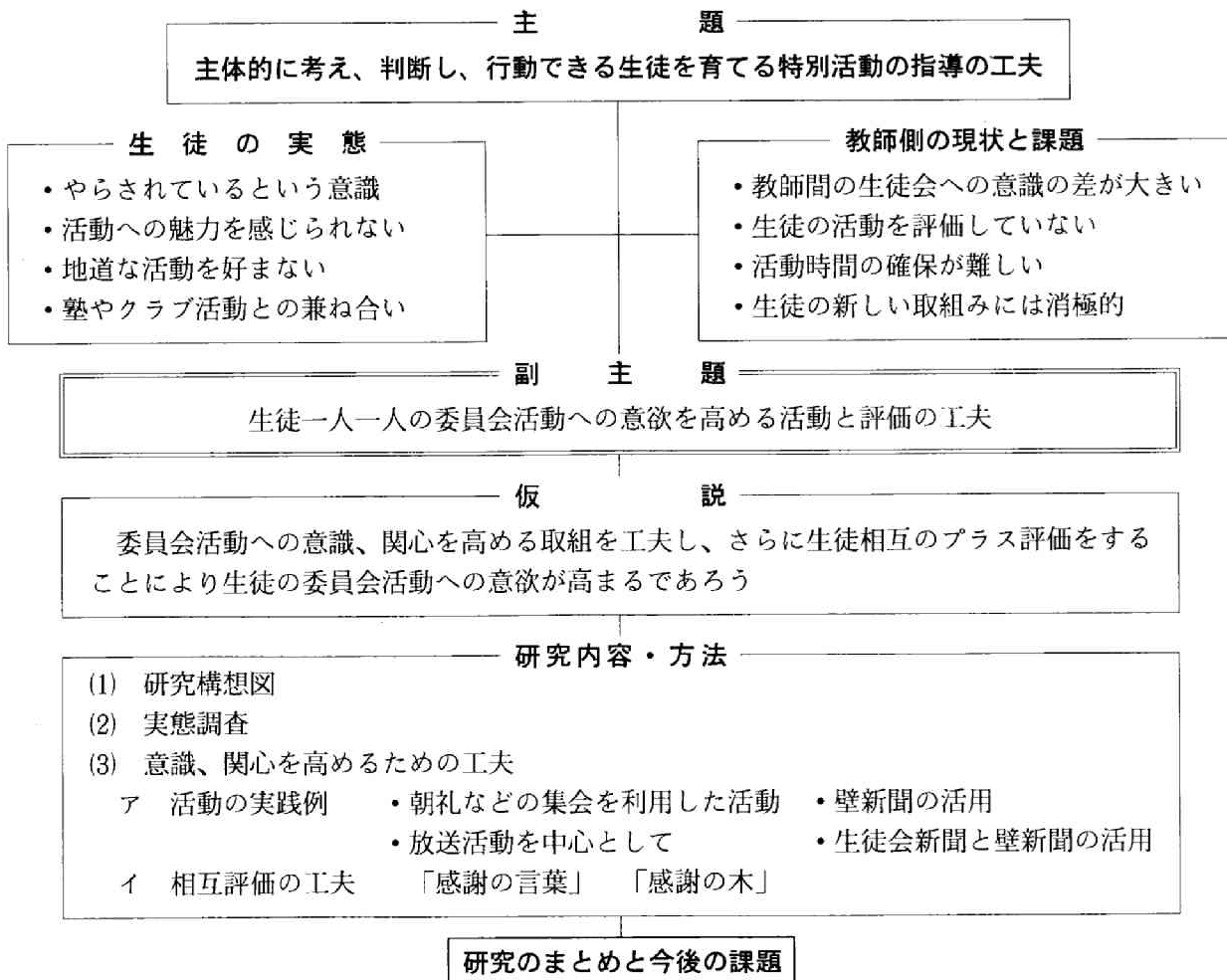
生徒会活動は、生徒一人一人が活動に関心と意欲をもち、自発的・自主的に生き生きと活動を展開できることが望ましい。

しかし、実際の活動においては、生徒の生徒会活動に対する関心・意欲が必ずしも高いとは言えない。その理由の一つとして、生徒同士がお互いの活動を評価し認め合うことがなく、生徒会活動に期待し、意欲をもって取り組む生徒には、成就感を味わえず取組みが消極的で受け身になってしまうことが多く見られる。

そこで、本分科会では生徒一人一人の委員会活動に対する意識・関心を高め、さらに生徒が相互にそれぞれの活動を認め、励まし合えるような評価を工夫することにより、意欲をもって委員会活動に取り組めるであろうと考え、本副主題を設定した。

#### 2 研究の内容

##### (1) 研究構想図



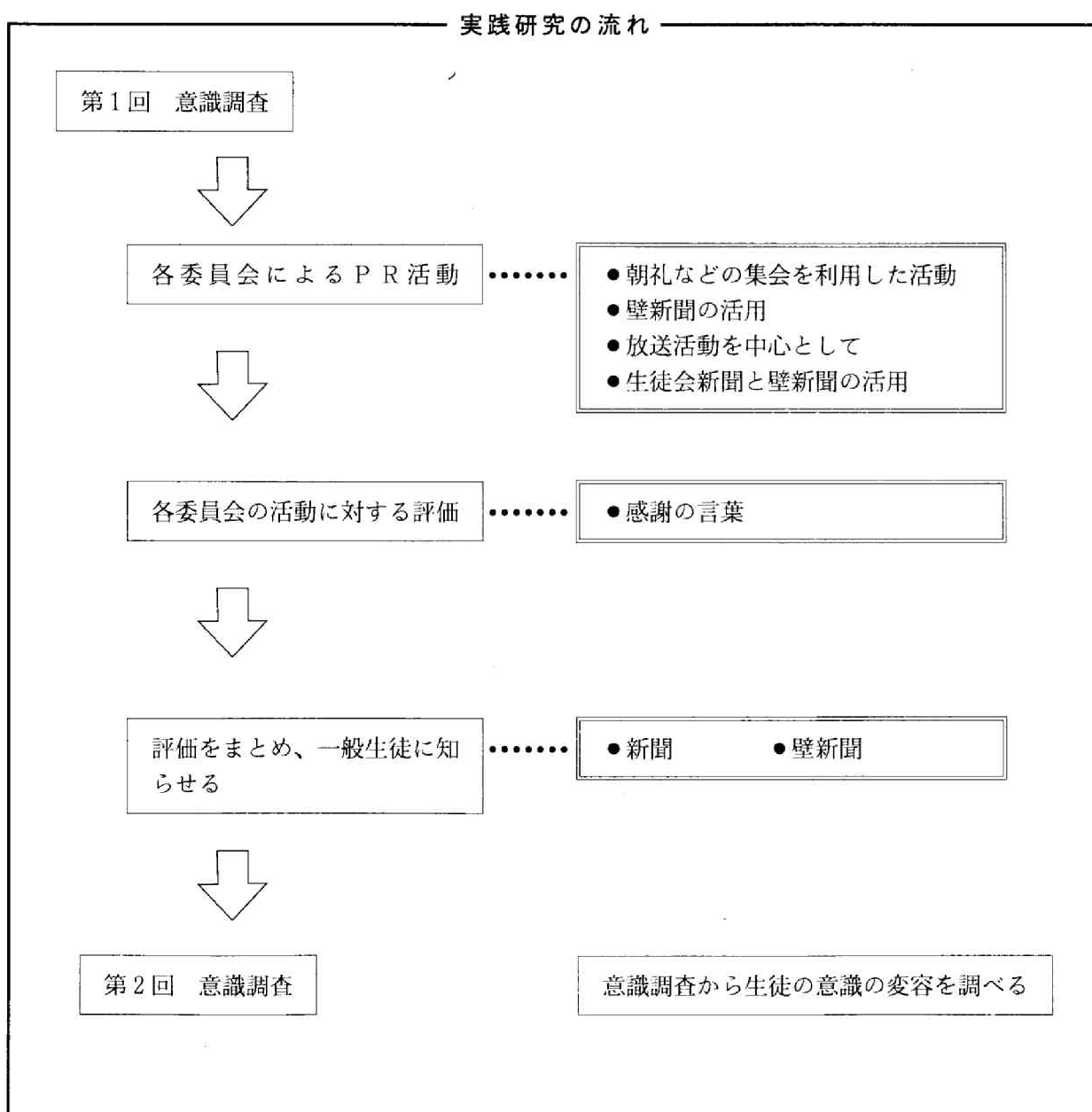


## (2) 委員会活動への意識・関心を高める活動と評価の工夫

一般生徒は、委員会活動について、どのような活動をしているかよく知らないことも多い。そこで、①生徒一人一人の委員会活動への意識・関心を高めるには、各委員会に活動内容を見直したり、その内容のPRを行うなどの点で工夫を行い、委員会活動に目を向けさせる。その後、②一般生徒を対象として各委員会の活動に対して感謝の言葉（よい面を評価してもらう方法）を書く。そして、③各委員会に感謝の言葉を返すことにより、活動者は満足感・成就感を高め、さらに一般生徒にも自分も活動に参加したいという気持ちが生まれるようにする。

これら一連の活動が委員会活動の活性化につながるであろうと考え実践した。

1回目と2回目の意識調査を通して、生徒の意識の変容を調査した。



(3) 研究内容と結果

ア 取組みの内容と調査結果の特徴

各委員会の活動内容を一般生徒に知らせる「広報活動」を行った。その広報活動として、朝礼などの集会の利用、放送の利用、生徒会新聞、掲示板の活用等、学校の実情に合わせて内容を選択し取り組んだ。その各校の取組み内容とその結果から読み取れる傾向をまとめるとア「取組み内容と調査結果の特徴」の一覧表のようになる。

学校	取組み内容	調査結果の特徴
A	集会・生徒会新聞 相互評価 (感謝の言葉)	生徒会新聞、朝会などの活動を通じて委員会活動への必要性について、関心が高まった。この結果を今後の各委員会活動の活性化へつなげていきたい。
B	壁新聞・集会 相互評価 (感謝の言葉)	関心・理解については、壁新聞によるPRの効果が見られた。しかし、必要性・委員への意欲がダウンしており、特に3年生の消極的な考えが目立つ。
C	放送 相互評価 (感謝の言葉)	『関心を高める活動の工夫』や『評価活動の工夫』といった取組みの成果が顕著であり生徒の意識における大きな変容の姿を見ることができる。
D	生徒会新聞・壁新聞 放送、相互評価 (感謝の言葉・木)	理解度は、どの学年についても大きく上がっており、生徒会新聞・壁新聞によるPR効果が大きく表れた。学年により、多少の差はあるが、「やりがいがあり」「内容がはっきりしている」委員会に入りたいという生徒が増えてきている。
E	放送・壁新聞 相互評価 (感謝の言葉・木)	委員会の活動内容を知ることにより、委員会に対する必要性・活動状況の把握等、生徒の意識に良い傾向の変化が見られた。特に、1年生では活動内容の理解度が増すことにより、委員会活動への意欲が著しく向上した。

イ 「感謝の言葉」「感謝の木」の工夫

日常の委員会活動に対する生徒相互のプラスの評価を「感謝の言葉」や「感謝の木」としてまとめた。(5) 評価の工夫と実践例参照)

ウ 委員会活動への意識に関する調査

委員会活動の現状をつかみ、取組みを通してどのように生徒の委員会に対する意識(必要性・関心度・理解・活動状況の把握・意欲・協力性)が変容したかを、取組みの前後での意識調査の一部をまとめた。(調査内容とグラフ参照)

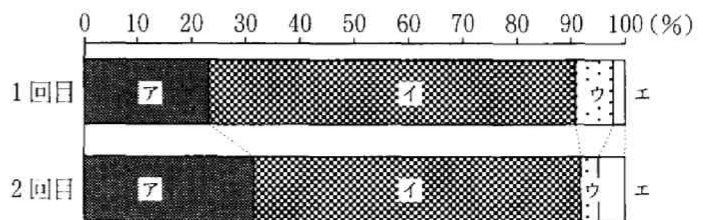
<意識調査結果 (E中の例; 全学年対象)>

[調査内容]

1. あなたは、学校生活をより良くするために、生徒会や委員会活動が必要だと思いますか。

- ア. 絶対に必要だと思う。
- イ. ある程度必要だと思う。
- ウ. あまり必要だと思わない。
- エ. 必要ではない。

[生徒の意見]



⊕生徒会や委員会は学校生活において必要

なものだから、みんな積極的に参加して欲しい。

⊖自分がやるならいやだけど、委員の人達は応援したいと思う。

2. あなたは、生徒会や委員会活動に関心をもっていますか。

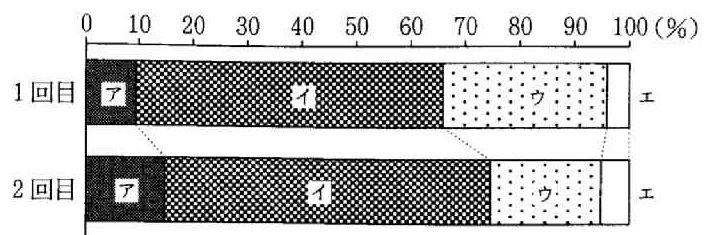
ア. とても関心をもっている。

イ. 多少関心をもっている。

ウ. あまり関心をもっていない。

エ. 全く関心をもっていない。

[生徒の意見]



⊕委員会は、一生懸命やることによって、いろいろと興味がわいたり、仕事に積極的になったりすると思います。

⊕最近、興味がわいてきました。私も少しずつ協力していきたいと思います。

⊕やりたい人がやればよいと思う。義務という意識より、楽しいと感じることの方が多い。

3. あなたは、生徒会や委員会がどのような活動をしているか知っていますか。

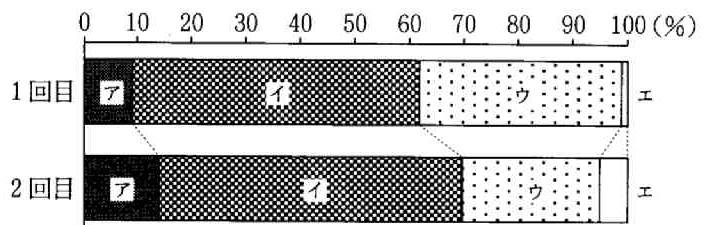
ア. 良く知っている。

イ. ある程度知っている。

ウ. あまり知らない。

エ. 全く知らない。

[生徒の意見]



⊕学校生活でとても重要な活動なので続けた方がよいと思う。

⊕いろいろな委員会があって、一つ一つの仕事に責任をもってやっていけばよいと思う。

⊖一部の委員会しか活発じゃないと思うので、そこをもう少し考えた方がよい。

4. ①あなたは、委員会の委員になりたいですか。(現委員は次期について)

ア. 積極的になりたい。

イ. 出来ればになりたい。

ウ. あまりなりたくない。

エ. 絶対になりたくない。

② 委員会に入りたい理由は何ですか。

(2つ以上選んでもよい)

ア. 忙しくても仕事にやりがいがあるから。

イ. 活動に魅力があって楽しいから。

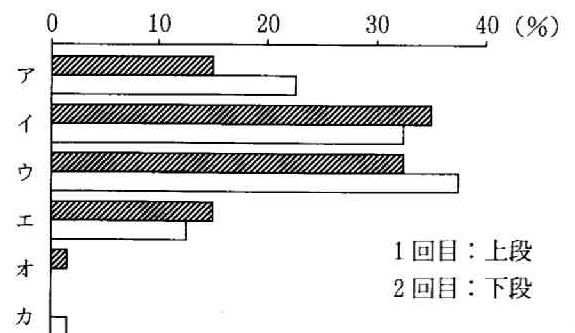
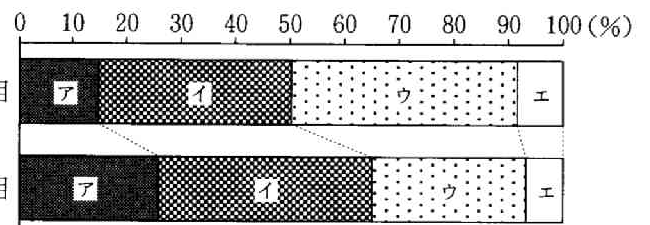
ウ. 仕事の内容がはっきりしているから。

エ. 活動が少なく、仕事楽だから。

オ. 成績が良くなると思ったから。

カ. その他

[生徒の意見]



⊕私は、今までいくつかの委員会をやってきたけど、どれも学校のために役立つものだったのでやりがいがあった。

⊕放課後残らずに、休み時間に活動するならやってみたかった。

○別にすごくやりたかったわけでもなかったけど、多数決で決まってしまった。

#### 調査結果からの分析と傾向及び考察

調査結果から、広報活動を通して生徒の委員会に対する意識が必要(1)、関心度(2)、理解度(3)、意欲・協力性(4)共に向上しており、委員会活動の活動内容を一般生徒に知らせることが、委員会活動を進めていく上で大切であることが理解できる。

よい結果に結びついた要因として次のようなことが考えられる。

- (ア) 委員会の活動内容を明確にしたこと。
  - (イ) 生徒会新聞や校内放送等の広報活動を利用したこと。
  - (ウ) 委員会の活動内容や委員会への要望を一般生徒に知らせることにより、全校生徒に一体感をもたせることができた。
  - (エ) 意識調査が、「私たちの」委員会活動であるという意識をもたせるきっかけとなった。
- しかし、その反面、意識調査1の必要感・2の関心度・3の理解度の質問に対し、エの回答「関心なし」など意識の低い回答が増えた。その理由として次のことが考えられる。
- (ア) 前期には委員会活動に参加していたが、後期は参加していない生徒がいるため参画意識の低下につながってしまった。
  - (イ) 3年生は、目標が進路に向けられ、委員会への関心が薄くなった。
  - (ウ) 活動内容がはっきりしたことにより、委員会活動に魅力を感じなくなった。

#### (4) 委員会活動への意識、関心を高めるための活動の実践例

##### 〈実践例1：A中 朝礼などの集会を利用した活動〉

##### ① 活動のねらい

- ア 各委員会から活動について呼びかけをし、一般生徒の興味・関心を高める。
- イ 生徒自身の手で会を運営することにより、生徒会役員・各委員長の自覚を高める。

##### ② 活動計画

- |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 生徒協議会  | ・ 今月の各専門委員会での協議内容の確認、各専門委員会への要望等の検討。 |
| 各専門委員会 | ・ 前月の反省及び今月の活動計画の協議。一般生徒への呼びかけ内容の検討。 |
| 生徒協議会  | ・ 各委員会で話し合った内容の確認及び集会で呼びかける内容の確認。    |
| 生徒会朝会  | ・ 生徒会役員の司会で、各委員長が一般生徒へ活動について呼びかける。   |

##### ③ 活動に対する評価

この活動により各委員長の自覚、責任感が高まったと思われる。また、生徒同士の呼びかけのため、『やらされている』という意識から『協力しよう』という雰囲気少しずつ芽生えてきた。今後も活動に工夫を加え、マンネリ化しないように注意する。

##### ④ 生徒の感想

- ・ 全校生徒の前に立つので責任の重さを感じる。
- ・ 友達が頑張っているので協力しようと思う。

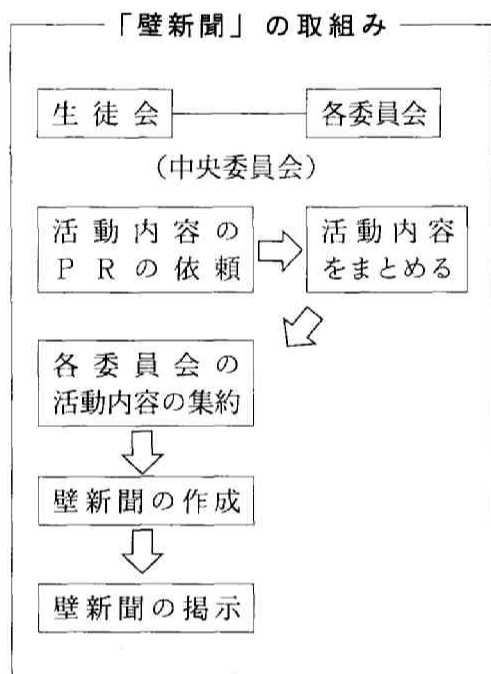
## 〈実践例 2 : B 中 壁新聞の活用〉

### ① 活動のねらい

委員会の活動に対する意識・関心を高めることを目的として、一般生徒に普段の活動の様子をPRする。一般生徒が目にしやすい廊下を利用し、各委員会の活動を壁新聞にして掲示する。

### ② 活動計画

各委員会の活動内容を生徒会で集約し、壁新聞を作成してPR活動を行う。



### 生徒の感想

- いろいろな委員会がけっこう活動しているんだなと思った
- 朝早く、放課後と委員会の生徒頑張っていますね
- 大変そうで自分にはできそうにもない

### ③ 本活動に対する評価

この取組みを通して、次のような一般生徒の委員会活動に対する意識・関心を高める効果が得られた。

- ア 各委員会の活動が明確化された
- イ 目立たない日常の活動を一般生徒が確認した
- ウ 普段委員会活動に関心を示さない生徒も見erようになった
- エ 各委員会の生徒の活動に対する意識・意欲が高まった

本活動は、後期委員選出の直前であり委員になるための心構えとも関連して、一般生徒は、興味深く壁新聞を見ていた。

整備美化委員会は地域清掃を実施したり、生徒会本部は各委員会と協力して古本市を実施したりして、活動内容を工夫して特に一般生徒の関心を集めた。

〈実践例 3 : C 中 『生徒の興味・関心を高める委員会活動の工夫～放送活動を中心として』〉

〈活動のねらい〉

放送委員会による活動を通して生徒会・委員会活動に対する生徒の興味・関心を高め、適切な評価活動を行えることをねらいとした。

〈前期放送委員会の取組み〉

中央委員会

生徒会役員より放送活動を中心として関心を高めるための工夫の取組みと実施計画、内容について説明



放送委員会の準備

- 番組編成
- DJ・音楽担当
- 取材担当
- 編集担当

各種専門委員会の準備

前期の活動内容を原稿用紙1枚程度にまとめておく



当日(昼)の放送活動

- オープニングテーマの音楽
- ↓
- 放送委員(DJ風)に委員会委員長と対談『活動の内容』『活動して苦労したこと』『みんなにお願いしたいこと』(委員長)
- ↓
- 皆さんからのお便りコーナー  
一般生徒から委員長への質問や意見を紹介する
- ↓
- 翌日に出演する委員長名を紹介する  
エンディングテーマの音楽



〈一般生徒の感想〉

- 各委員会の活動がよくわかりました。
- 給食時間が楽しくなりました。

〈放送委員の感想〉

- DJ風に話すのが難しかった。
- 放送時間内にうまくまとまらず苦労した。

〈本活動に対する評価〉

- 放送委員会や委員長などの活動者は意欲的に活動を楽しみながら取り組んでいた。
- 一般生徒もラジオ番組風にとらえ関心をもち、参加意識が出てきた。

## ＜実践例4：D中 生徒会新聞と壁新聞を利用した活動例＞

－スクールプロジェクトの取組みについて－

### ① 活動のねらい

- ア 委員会の諸活動を、視覚（生徒会新聞と壁新聞）に訴えてPRし、一般生徒の委員会活動に対する興味・関心を高める。
- イ 生徒会新聞に載せることにより、全生徒に、確実に、委員会の活動内容を伝える。
- ウ 委員会壁新聞を模造紙で作成し、廊下に掲示することにより、生徒に強く印象付ける。

### ② 活動計画

- 中央委員会と生徒会本部が中心となり、委員会活性化に向けての取組みを「スクールプロジェクト」と名付け、約一ヶ月にわたり、生徒会本部と協力して、委員会活動の内容を一般生徒にPRする活動を展開した。

「委員会の活動状況」「1学期反省」「2学期の目標」を発売（生徒会新聞・壁新聞）

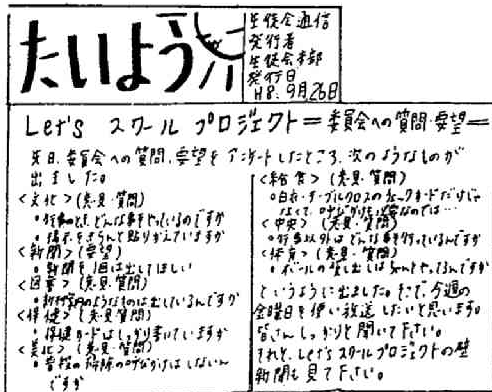


「委員会への質問・要望」があれば、職員室前の箱に書いて入れるように生徒会本部から全校生徒に呼び掛け、用紙も配布する。



「質問・要望」と「その回答」を発売し、新聞や放送を使って発表する。

（生徒会新聞・壁新聞・放送）



### ＜活動の工夫＞

- 生徒会新聞では委員会についての特集を組み、一般生徒の意識に委員会活動の内容が、強く残るようにした。
- 壁新聞は、できるだけ派手にし、同じ物を3枚作って、各学年の廊下に長い期間掲示するようにした。

### ＜本活動に対する一般生徒の感想＞

- 「スクールプロジェクト」で色々な委員会に関心がわきました。
- 委員会の人達が、自分のためでなく、学校をよりよくするために働いてくれていることがよく分かりました。
- 廊下の掲示を見ながら歩くのが好きなので、これからもこんな企画を続けてください。

### ③ 本活動に対する評価

本活動により、生徒の活動内容に対する理解度はどの学年においても高まったが、委員会活動自体の活性化については、さらに継続した指導や取組みが必要である。

(5) 評価の工夫と実践例

ア 委員会活動に対する関心を高めるために様々な取組みを実践したことにより、一般の生徒の意識・関心が高まった。そこでさらに、委員会活動に対して一般の生徒からのプラスの評価を感謝の気持ちを込めて伝えることにより、委員会活動への意欲もさらに高まり、委員にとっても満足度・やりがいが増えたと考えた。

(資料1)

委員会活動への感謝の言葉

「ありがとう！ おかげで助かっています！」

○前期各委員会への日頃活動していることに対して、「ありがとう！おかげで助かっています！」という感謝の言葉をクラス全員記入させる。(資料1)

委員会名	① 感謝の言葉
生徒会	
学級	
生活	



各委員会ごとにまとめクラス全員にもどす。(資料2)

(資料2)

— 感謝の言葉 —

★日ごろ学校のために一生懸命がんばって活動してくれている委員たちへの、みんなからの感謝の言葉です。

〔生徒会へ〕

- ・朝礼の時、司会進行してくれてご苦労さま。
- ・いつも遅くまで残って仕事をしてくれてご苦労さまです。いろんな仕事で中心となってやってくれて助かっています。

〔学級委員会へ〕

- ・修学旅行のいろいろな準備をしてくれてありがとう。
- ・クラスの中心となり、まとめてくれてありがとう。(大変だったと思う)

〔生活委員会へ〕

- ・チャイム着席調べなどで、生活が良くなり助かった。
- ・月目標のおかげで、毎月きちんとした生活が送れるので助かっています。

〔考察〕

○「感謝の言葉」が、一般の生徒及び活動している生徒にとって、大いに意識・関心を高めるプラスの評価となった。



イ 各クラスにおろした「感謝の言葉」を掲示の仕方をひと工夫し、全校生徒にアピールすることによって、感謝の言葉を伝え関心をもたせる。



写真1 「感謝の木」

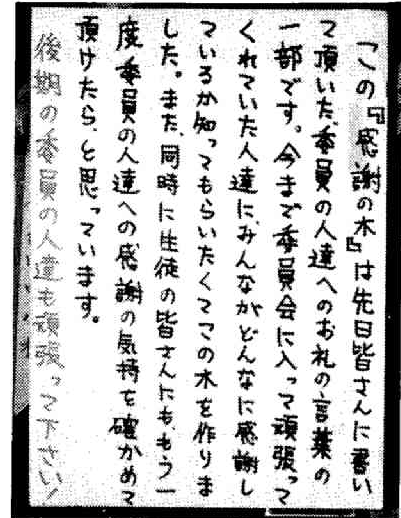


写真2 「感謝の木の説明」

「感謝の木」

○花びら一枚に感謝の言葉を書き、それを木のまわりに貼ることにより、一本の大木となる。(写真1・2)



写真3 「各委員会への感謝の木」

「各委員会への感謝の木」

○葉の少ない委員会も、後期はもっと葉が繁るようにがんばってもらう意味でも、大きな意識付けの工夫となった。(写真3)

— 図書委員会への感謝の言葉 —

- ・おすすめの本などを、プリントで紹介してくれるので助かります。(3年女子)
- ・昼休みなど、図書室の開放をしてくれて良かったです。(2年男子)
- ・本の貸し出しをしてくれてありがとう。ごくろうさま。(1年男子)

ウ 「感謝の言葉」を読んで、一般生徒に意識・関心を高めてもらうと同時に、前期委員の生徒にもアンケートをとり、委員としての意欲や満足度を調べた。(資料3)

### 資料 3

★委員会の評価のまとめをみて、前期委員だった人は下の問いに答えてください。

1. 委員会の評価のまとめをみて、あなたの感想を書いてください。

2. あなたは、評価のまとめの感謝の言葉をよんで、満足感が得られましたか。

〔はい・いいえ〕

3. あなたは、ますます委員会活動に意欲がわいてきましたか。

〔はい・いいえ〕

### 〔感想〕

・みんなからこんなに感謝してもらってうれしかった。仕事は大変だったけど、やってよかった。 (1年男子)

・頑張っているところを口にはしなくても、ちゃんと見ていてくれる人がいるということは、委員にとって大きな喜びと支えになり、また委員としての自覚を高めるものになると思います。 (3年女子)

・この委員をやっていてとてもよかった。またやりたいです。 (2年女子)

### ◎委員へのアンケートの結果の考察

- ① 前期委員にとっては、こんな所までみんなは見ていてくれたのかと、どの生徒も満足感がもてた。
- ② この評価活動が、後期委員会を活性化するとともに、生徒への意識を高め、関心・意欲を向上する上で大いに役立った。

### 3 研究のまとめと今後の課題

#### (1) 研究のまとめ

本研究は「委員会活動を知る活動や、一般生徒から委員会への『感謝の言葉』を工夫することにより、生徒の委員会活動への関心・意欲が高まるであろう。」という仮説のもとに進めた。具体的には、「広報活動の工夫」と、「生徒の委員会活動への意欲を高める相互評価、特によい面の評価の工夫」を行った。その成果をまとめると以下ようになる。

ア 各委員会の広報活動を工夫することにより、一般生徒の委員会に対する理解が深まり、委員会が学校生活をよりよくするために必要なものであり、一層関心をもって協力しようとする気持ちをもたせることができた。

イ 委員会活動のよい面を評価し、伝える活動として「感謝の言葉」を行うことで、委員会の生徒が満足感をもち、活動に積極的に参加しようとする意欲が高まった。

ウ 委員会活動の内容は現状のままでも、広報活動、評価活動を工夫することで、生徒の委員会活動に対する意欲が高まることがわかった。

#### (2) 今後の課題

- 学校週5日制への移行にともない、いかに生徒会や委員会の活動時間をどのように確保し、計画的・効率的に実践していくかを、全教員の共通理解・協力のもとに検討していくことが大切である。